

平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教育心理学(Educational Psychology)		授業コード	K001401
担当教員名	山本 義史		科目ナンバリングコード	K10103
配当学年	2	開講期	前期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	教職必修科目です。履修条件はありませんが、教職への適性を各自自己評価してください。			
受講心得	欠席した学生は、毎回課題(レポート配付します)を提出することができません。家で解答して翌週提出しますやむをない理由で欠席した学生は、次週に課題をとりこきて、提出すること。			
教科書	「学習効果をあげる生活環境—学校と連携 する家庭・地域 —」(溪水社)山岸 治男(編著)			
参考文献及び指定図書	「教育心理学の探究」(ナカニシヤ出版)柳井修・林幹男・古城和子(編著)			
関連科目	心理学、発達心理学、青年心理学、社会心理学			

授業の目的	教職必修科目です。教育とは人間関係に立脚した、影響を与え合う相互作用過程です。その影響は、相手の理解があつて初めて効果を発揮します。教育心理学は教育現象に関する心理を取り扱います。講義では、教職教養に必要な知識を解説するだけでなく、教育について絶えず問いかけていきます。
授業の概要	講義形式です。毎回ワークノートを用意してきます。それをパワーポイントを利用して解説していきます。教員採用試験科目でもありますから、教員採用試験受験予定の学生は積極的に取り組んでください。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：発達について 教職に必要な基礎学力診断テストを行い、自己評価をしてみます。そして、教職課程で必要とされる発達領域を概観してみます。そこで、教育における児童生徒の発達の理解の重要性について解説します。	ワークノート もち帰り課題
第2週：発達の基礎について 発達とは受胎から死に至るまでの間、心身の機能や構造が量的にも質的にも変化していく過程です。そこには一定の法則性や原理が発見されてきました。発達の基礎について、発達の概念や原理および発達を支える要因について概説します。	ワークノート 課題提出・もち帰り課題
第3週：発達の理論について 発達理論は、人の発達の要因や条件、発達のメカニズムに焦点を当てたものです。その代表的な発達の理論について、フロイトの精神分析理論・エリクソンの心理社会的理論・バンデュエラの社会的学習理論を解説します。	同上
第4週：胎生期・乳児期の発達について 胎生期・乳児期の特徴について解説します。人の一生は受精によって始まり、母親の胎内で約40週間経過後、誕生を迎えます。この期間を胎生期といいます。そして、1歳までを乳児期といいます。自我の形成の基礎や愛着行動が獲得される時期です。	同上
第5週：幼児期・児童期の発達について 1 幼児期・児童期の特徴について解説します。1歳から6歳までを幼児期といいます。歩行と合わせて言語の発達が著しい時期です。また、母親との分離が始まり、新しい世界を体験していく時期です。7歳から11・12歳までを児童期といいます。社会性・知性の発達が著しい時期です。	同上

第6週：幼児期・児童期の発達について 2		
<p>幼児期・児童期の特徴について解説します。1歳から6歳までを幼児期といいます。歩行と合わせて言語の発達が著しい時期です。また、母親との分離が始まり、新しい世界を体験していく時期です。7歳から11・12歳までを児童期といいます。社会性・知性の発達が著しい時期です。</p>		同上
第7週：青年期の発達について		
<p>青年期の特徴について解説します。12・13歳から成人期までを青年期といいます。自我の目覚めや第2次性徴夜や性成熟を経験して、心身の変化が著しい時期です。心理社会的発達理論によれば、自我同一性が発達課題であるといわれます。</p>		同上
第8週：心身障がい児の心理と指導について		
<p>心身障がい児の心理と指導について解説します。学校教育の現場では特別支援学校と協力して障がいをもった児童・生徒が学校教育を受けています。</p>		同上
第9週：学習について 1		
<p>まず、学習心理学領域の見通しを与えるために、教職課程で必要とされる学習領域を概観します。学習の基礎について、学習の定義・理論について解説します。</p>		同上
第10週：学習について 2		
<p>まず、学習心理学領域の見通しを与えるために、教職課程で必要とされる学習領域を概観します。学習の基礎について、学習の定義・理論について解説します。</p>		同上
第11週：学習意欲について		
<p>学習意欲について解説します。学習過程を動機づける達成動機や意欲、そしてそれ意欲に影響を与える原因帰属、自己原因性、自己効力感、自尊感情などについて解説します。さらにそれらと意欲との関係を解説します。</p>		同上
第12週：学習を支える認知過程および教授—学習過程について		
<p>学習を支える認知過程について、知能・記憶・思考・創造性の観点から解説します。また、学習指導を行うために、効率的で学習者に最適な教授—学習過程はどうあればよいのかについて考えます。</p>		同上
第13週：教育評価について 1		
<p>教育評価について解説します。教育目標の達成度は、教育測定によってデータ化され、それらを木曜に照らして価値づけ過程が教育評価です。教育評価の意義や方法などについて考えます。</p>		同上
第14週：教育評価について 2		
<p>教育評価について解説します。教育目標の達成度は、教育測定によってデータ化され、それらを目標に照らして価値づけ過程が教育評価です。教育評価の意義や方法などについて考えます。</p>		同上
第15週：教育評価について 3		
<p>教育評価について解説します。教育目標の達成度は、教育測定によってデータ化され、それらを木曜に照らして価値づけ過程が教育評価です。教育評価の意義や方法などについて考えます。</p>		同上
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教員採用試験科目でもあるので、教員採用試験受験予定の学生は積極的に取り組んでください。さらに、教員になるふさわしい授業態度・社会常識修得達成を求めます。
【知識・理解】	教員採用試験科目でもあるので、教員採用試験受験予定の学生は積極的に取り組んでください。さらに、教員は知的な職業ですから、一般教養・専門的知識の修得達成を求めます。
【技能・表現・コミュニケーション】	教育は人間関係でもあるので、教育技能に加えて、コミュニケーション能力・学習板知識を表現・説明する能力の修得達成が求められます。
【思考・判断・創造】	教育には創造性が求められるので、思考・判断の修得達成も必須です。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	104点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		26点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	78点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	